※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

自転車の交通事故発生状況
令和6年中

1　自転車の交通事故発生状況

令和６年中の自転車事故（同乗者を含む自転車乗用者が死傷した交通事故）は、前年と比較して、発生件数及び負傷者数ともに減少したものの、死亡事故は６件６人発生し、前年比３件３人の増加となりました。

【自転車の交通事故発生状況】　（令和６年中）

区　分	発生件数	死亡事故		負傷者数		
		件　数	死者数	重　傷	軽　傷	計
本　年	564	6	6	84	479	563
前　年	577	3	3	96	481	577
増減数	−13	3	3	−12	−2	−14
増減率	−2.3	100.0	100.0	−12.5	−0.4	−2.4

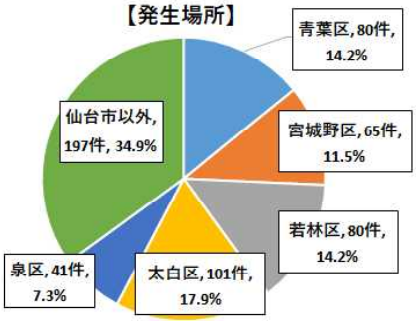
【自転車の交通死亡事故一覧】

No.	発生年月日等											死者
	年	月	日	時	曜	昼夜	天候	発生場所	路線	形状	事故類型	高齢者
1	6	1	3	17	水	夜	晴	栗原市築館	市道	直線	自転車単独	◎
2	6	3	4	15	月	昼	晴	仙台市太白区袋原	市道	直線	四輪対自転車	◎
3	6	3	30	4	土	夜	晴	柴田町大字槻木	県道	直線	四輪対自転車	◎
4	6	4	23	9	火	昼	曇	塩釜市東玉川町	県道	交差点	四輪対自転車	◎
5	6	5	25	19	土	夜	晴	大河原町金ヶ瀬	町道	直線	四輪対自転車	◎
6	6	6	10	19	月	夜	晴	蔵王町大字矢附	県道	直線	四輪対自転車	◎

2　仙台市内の自転車交通事故の発生状況

県内の自転車事故の６割以上(564件中367件。65.1%)が仙台市内で発生しており、内訳は、太白区が101件で最も多く、次いで青葉区と若林区が、いずれも80件でした。

また、仙台市内の自転車事故は、前年と比較すると、発生件数及び負傷者数ともに減少しましたが、死亡事故が太白区で１件発生し、死亡事故件数、死者数ともに、前年同数でした。



【仙台市内の自転車の交通事故発生状況】　（令和６年中）

区　分	発生件数	死亡事故		負傷者数		
		件　数	死者数	重　傷	軽　傷	計
本　年	367	1	1	41	328	369
前　年	390	1	1	60	330	390
増減数	−23	0	0	−19	−2	−21
増減率	−5.9	0.0	0.0	−31.7	−0.6	−5.4

3　自転車が第１当事者となった事故の発生状況　（基礎データ令和元年～令和６年）

令和６年中の自転車が第１当事者となった人身交通事故は、前年と比較すると対歩行者事故が14件で６件減少し、対自転車事故が８件で前年同数となり、合計発生件数は27件で、10件減少となりました。また、死亡事故が単独で１件（前年比±０件）発生しました。

区　分	自転車×歩行者			自転車×自転車			自転車×二・四輪車			自転車単独			計		
	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者
令和元年	27	0	27	13	0	13	4	0	4	2	1	1	46	1	45
令和2年	22	0	22	11	0	13	4	0	6	1	1	0	38	1	41
令和3年	14	0	14	8	0	10	0	0	0	0	0	0	22	0	24
令和4年	15	0	15	6	0	6	3	0	4	4	2	2	28	2	27
令和5年	20	0	21	8	0	8	6	1	5	3	1	2	37	2	36
令和6年	14	0	14	8	0	9	4	0	4	1	1	0	27	1	27
前年比	−6	0	−7	0	0	1	−2	−1	−1	−2	0	−2	−10	−1	−9

4　自転車事故の発生推移（基礎データ平成27年～令和６年）

令和６年中の発生件数は、ピーク時である平成16年（2,208件）の３割以下まで減少し、平成22年以降は、右肩下がりの減少傾向となっています。

死者数は、平成24年以降は１桁（最高７人）で推移し減少傾向であったものの、令和６年は、３年ぶりに増加に転じました。

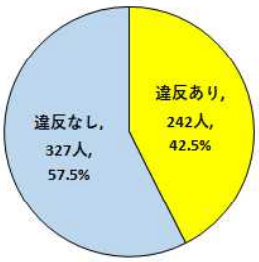
5　自転車事故の特徴等（基礎データ令和６年中）

(1) 死傷者の４割以上に違反

自転車乗用中死傷者の４割以上（569人中242人。42.5％）に違反が認められました。

違反別では、動静不注視が最も多く、違反の５割以上（242人中124人。51.2％）を占めました。

【自転車死傷者の違反】



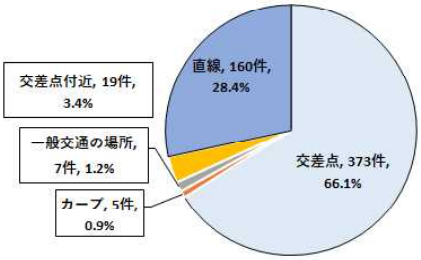
違反種別	人数
安全不確認	56人
動静不注視	124人
操作不適	2人
前方不注意	7人
交差点安全	9人
通行区分	7人
一時不停止	4人
信号無視	2人
他の違反	31人
違反なし	327人
合計	569人

(2) 交差点での発生が多い

道路形状別では、６割以上（564件中373件。66.1％）が交差点で発生し、全事故の構成率（3,785件中1,568件。41.4％）を24.7ポイント上回りました。

また、事故類型別では、出会い頭の事故が約５割（564件中269件。47.7％）を占めており、全事故の構成率（3,785件中887件。23.4％）を24.3ポイント上回りました。

【道路形状別自転車事故】

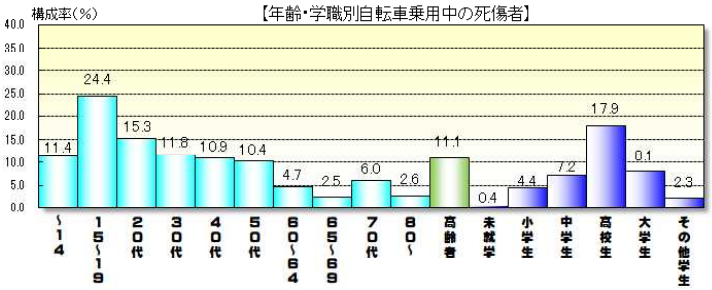


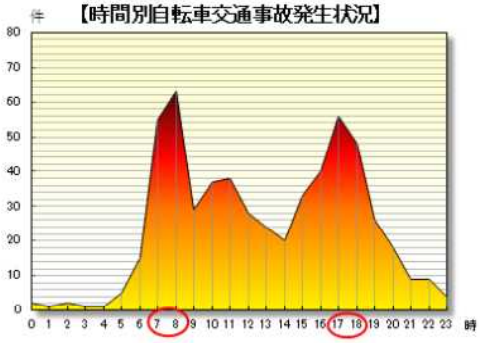
(3) 朝夕の通勤・通学時間帯の発生が多い

発生時間別では、朝の７時台～８時台と夕方の17時台～18時台の通勤・通学時間帯に多く発生しました。

(4) 高校生の事故が多い

年代別では、15～19歳の死傷者が139人（24.4％）と最も多く、学職別では高校生が102人（17.9％）と多くなりました。





区　分	計	年代別Ⅰ										年代別Ⅱ	学職別					
		～14	15～19	20代	30代	40代	50代	60～64	65～69	70代	80～	高齢者	未就学	小学生	中学生	高校生	大学生	その他学生
死傷者数	569	65	139	87	67	62	59	27	14	34	15	63	2	25	41	102	46	13
死 者 数	6	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	6	0	0	0	0	0	0
負傷者数	563	65	139	87	67	62	59	27	14	30	13	57	2	25	41	102	46	13

(5) ヘルメットの着用率が低い

自転車乗用中の死傷者569人のうち、ヘルメットを着用していたのは83人（14.6％）で、着用率が２割以下でした。

また、ヘルメット非着用者486人のうち70人（14.4％）は、ヘルメットを着用していれば負傷の程度を軽減できたと考えられます。

	死亡	重傷	軽傷	死傷者計
着用	1	10	72	83
非着用	5	74	407	486
うち効果あり	5	15	50	70